

生後六か月、その症状が出た。アナフィラキシーショックだ。私は初めて救急車に乗った。離乳食でうどんを一口食べた後、私の顔は腫れ、呼吸が乱れて全身に蕁麻疹が出た。食物アレルギーは本来、体に害がない食べ物を異物と勘違いし免疫反応が過敏に働く現象だ。その結果、蕁麻疹、咳、呼吸の乱れ、血圧低下、重度の場合は命の危険になる。私は小麦に異常反応し、小麦以外にも卵、大豆、りんご、ナッツ等多くのアレルギーがあった。一体何が食べれるのか、母は悩んだと言う。三歳から食物経口免疫療法を始めた。これは摂取しても安全な量を継続して摂取し、体をその食べ物に慣れさせて徐々に食べれる様にする方法だ。卵から始めたが、卵を食べれる様になるまで二年もかかった。

これだけの治療を受けても治療費は一ヶ月二百円と母に聞き驚いた。中学三年生までは市が負担してくれるから二百円で良い。母はこの子育て支援医療費制度がないと高額になり治療は続けられないだろうと言った。私は医療費制度の有難さを実感した。この子育て支援医療費制度が気になり市役所に問い合わせた。財政課の方が令和四年の子育て支援医療費に二億二百七十八万円かかっていると教えてくれた。驚いた。更に資料を見ると医療費や救急車だけではなく、当たり前に使っている学校の机や教科書、図書館の本、道路や公園や下水道の維持費等、私達の生活を税金が支えていた。最近、家の前の公園の遊具が新しくなった。もちろんこれも税金が使われていた。更に学校の廊下も綺麗になった。これにはなんと、七百万円もかかっていた。新しい廊下は綺麗で嬉しくなる。誰かの納めた税金のおかげで快適な学校生活が送れていると知り、心を込めて掃除し大切に使おうと思った。税金は知らず知らずのうちに私達の生活を支えている。税金が無いと今の生活は送れないだろう。今の私に出来る事は少ないが税金への関心、意識を変える事は出来る。

私はまだアレルギーの治療中だ。治療のおかげで食べれる物が増えた。みんなのお弁当に入ってる憧れの卵焼きは美味しかった。一口だが食べれる様になった小麦のパンはふわふわで米粉のパンとは比べ物にならない。世の中には美味しい物が沢山あると感動した。みんなと一緒に食べたかった給食は小学三年生で除去食だが食べ始めて嬉しかった。こんな感動を味わえたのも治療が出来たおかげで、その治療は医療費、税金のおかげだ。誰かが納めた税金で私は助けられている。人は一人では生きられない。みんなが助け合って生きている。今まで税金のイメージはあまり良いものではなかった。しかし直接助けられなくても税を通じて誰かを助ける事が出来る。税金は人と人を繋げ、時には命を救う大切なものだ。だからみんなの大切な税金は正しく使って欲しいし、私もいつか誰かを助ける為にしっかり税金を納められる大人になりたい。